

35.G2089



PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:)
SEISHI EJIRI) Examiner: Unassigned
Application No.: 08/997,706) Group Art Unit: Unassigned
Filed: December 23, 1997)
For: DATA COMMUNICATION)
SYSTEM : April 24, 1998

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicant hereby claims priority under the
International Convention and all rights to which he is
entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon Japanese Priority
Application No. 348049/1996, filed December 26, 1996.

A certified copy of the priority document is
enclosed.

Applicant's undersigned attorney may be reached
our New York office by telephone at (212) 758-2400. All

RECEIVED

98 JUN 11 11:11

GROUP

correspondence should continue to be directed to our below
listed address.

Respectfully submitted,

Abigail Corbin
Attorney for Applicant

Registration No. 29,292

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
277 Park Avenue
New York, New York 10172
Facsimile: (212) 758-2982

F502\A599086\pp

CFG 2089
08/997,706^{US}

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

69 APR 27 1995

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1996年12月26日

出 願 番 号

Application Number:

平成 8年特許願第348049号

出 願 人

Applicant (s):

キヤノン株式会社

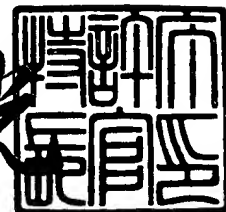
CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

RECEIVED
98 JUN 11 AM 11:12
GROUP 2700

1998年 1月30日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

荒井寿光



出証番号 出証特平09-3113005

【書類名】 特許願

【整理番号】 3260007

【提出日】 平成 8年12月26日

【あて先】 特許庁長官 荒井 寿光 殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 データ通信装置及びデータ処理装置の制御方法

【請求項の数】 12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社
内

【氏名】 江尻 征志

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【郵便番号】 146

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【電話番号】 03-3758-2111

【代理人】

【識別番号】 100069877

【郵便番号】 146

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社
内

【弁理士】

【氏名又は名称】 丸島 儀一

【電話番号】 03-3758-2111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011224

【納付金額】 21,000円

特平 8-348049

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9003707

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ通信装置及びデータ処理装置の制御方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 データ処理装置と接続する接続手段と、
オペレータによるマニュアル指示を入力する操作手段と、
前記操作手段で入力された指示に基づきデータを送信する送信手段と、
前記操作手段で入力された指示に基づく前記送信手段によるデータの送信に関する情報を前記接続手段を介してデータ処理装置に通知する通知手段とを有することを特徴とするデータ通信装置。

【請求項2】 前記送信手段はさらに前記接続手段を介して接続されたデータ処理装置からの指示に基づきデータを送信することを特徴とする請求項1に記載のデータ通信装置。

【請求項3】 前記通知手段で通知する情報には送信宛先、送信時刻、送信結果、送信時間及び送信ページ数のいずれかが少なくとも含まれることを特徴とする請求項1または2に記載のデータ通信装置。

【請求項4】 前記通知手段は前記送信手段による送信の状態が所定の状態となったときに該情報を通知することを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項5】 前記通知手段は前記送信手段による送信の状態に応じて複数回該情報を通知することを特徴とする請求項4に記載のデータ通信装置。

【請求項6】 前記通知手段は前記送信手段による送信が終了した時点で該情報を複数分まとめて通知することを特徴とする請求項4に記載のデータ通信装置。

【請求項7】 前記通知手段はさらに前記送信手段で送信されるデータを通知することを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項8】 さらに、ユーザ識別情報を入力する入力手段を有し、
前記通信手段は前記入力手段でユーザ識別情報が入力された場合に該ユーザ識別情報に対応付けて該情報を通知することを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項9】 前記接続手段は複数のデータ処理装置が接続されたネットワークと接続可能であり、前記通知手段は前記入力手段で入力されたユーザ識別情報に対応したデータ処理装置に該情報を通知することを特徴とする請求項8に記載のデータ通信装置。

【請求項10】 データの送信を行うデータ通信装置と接続され、このデータ通信装置の制御を行うことのできるデータの処理装置の制御方法であって、

前記データ通信装置のマニュアル操作により行われたデータ送信に関する情報を該データ通信装置に問い合わせして取得する取得工程と、

前記データ通信装置にデータの送信を指示する指示工程と、

前記取得工程で取得した情報と前記指示工程における指示に基づくデータ送信に関する情報と記憶媒体に区別して記憶する記憶工程とを有することを特徴とするデータ処理装置の制御方法。

【請求項11】 さらにネットワーク上の複数の端末と通信する通信工程と、前記記憶工程で記憶した情報を前記通信工程でネットワーク上の端末に転送するように制御する制御工程とを有することを特徴とする請求項10に記載のデータ処理装置の制御方法。

【請求項12】 さらに前記データ通信装置によるデータ送信を指示したユーザを識別する識別工程を有し、

前記制御工程では前記識別工程で識別したユーザに対応した端末に該情報を転送するように制御することを特徴とする請求項11に記載のデータ処理装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はデータ処理装置と接続可能なデータ通信装置及びそのデータ処理装置の制御方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、例えばファクシミリ装置とパーソナルコンピュータ（PC）を接続

し、PCからの要求によりファクシミリデータの送信を行ったり、ファクシミリ装置が受信したデータや読み取ったデータをPCに転送したりするものが知られている。また、PCの制御に基づく動作の他、スタンドアロン型のファクシミリ装置として、ファクシミリ装置の操作部からの指示でファクシミリデータを送信する機能を兼ね備えたものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来ではファクシミリ装置の操作部からの指示でデータを送信した場合は、たとえPCが接続されていたとしてもこの送信に関する情報、例えば送信宛先、送信時刻、送信結果などはPC側では知ることができなかった。従って、PC側で送信に関する情報を一括して管理することができなかった。

【0004】

本発明は上述の問題点に鑑みてなされたものであり、データ通信装置のローカルオペレーションによる送信に関する情報を容易にデータ処理装置側で一括して管理されることのできるデータ通信装置及びデータ処理装置の制御方法を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために本発明のデータ通信装置は以下の構成を備える。

【0006】

即ち、データ処理装置と接続する接続手段と、オペレータによるマニュアル指示を入力する操作手段と、前記操作手段で入力された指示に基づきデータを送信する送信手段と、前記操作手段で入力された指示に基づく前記送信手段によるデータの送信に関する情報を前記接続手段を介してデータ処理装置に通知する通知手段とを有する。

【0007】

また本発明のデータ処理装置の制御方法は以下の工程を有する。

【0008】

即ち、データ通信装置のマニュアル操作により行われたデータ送信に関する情

報を該データ通信装置に問い合わせ取得する取得工程と、前記データ通信装置にデータの送信を指示する指示工程と、前記取得工程で取得した情報と前記指示工程における指示に基づくデータ送信に関する情報とを記憶媒体に区別して記憶する記憶工程とを有する。

【0009】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態の一例について詳細に説明する。

【0010】

(第1の実施形態)

図1は、本発明の実施形態例であるファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【0011】

同図において、CPU101は、システム制御部であり、装置全体を制御する。ROM102は、CPU101の制御プログラムを格納するものである。RAM103は、SRAM等で構成され、プログラム制御変数等を格納するものである。また、オペレータが登録した設定値や装置の管理データ等や各種ワーク用バッファもRAMに格納されるものである。

【0012】

画像メモリ104は、DRAM等で構成され、画像データを蓄積するものである。解像度変換処理部105は、ラスタデータのミリーインチ変換等の解像度変換制御部を行うものである。通信用符号化復号化処理部106は、読取時及び記録時の符号化方式と通信時の符号化方式が異なる場合に、通信用に符号化を行うものである。読取／記録用符号化復号化処理部107は、読取時及び記録時に画像データの符号化、復号化処理を行う。

【0013】

MODEM108は、ファクシミリの送受信信号の変復調を行うものであり、NCU109は、選択信号（ダイヤルパスまたはトーンダイヤラ）を通信回線（PSTN）119に送出する機能を有し、呼び出し音の検出により自動着信動作も行う。

【0014】

スキャナ111は、CSイメージセンサ、原稿搬送機構などで構成され、原稿を光学的に読み取って電氣的な画像データに変換するものである。画像処理部110は、読み取られた画像データに補正処理を施して高精細な画像データを出力するものである。

【0015】

操作部112は、キーボード等で構成され、オペレータが各種入力操作を行うためのものである。外部表示部113は、LCD、LED等でユーザに表示通知するためのものである。

【0016】

プリンタフォーマッタ114は、PCなどからのファイルデータのプリントを行う際に、プリンタ記述言語を解析し、画像データに変換するものである。プリンタ115は、受信画像やファイルデータを記録紙に記録する装置である。

【0017】

PCインターフェース制御部116は、PCとデータの授受を行うために、データの処理を行うものである。そして、PC（パーソナルコンピュータ）118とPCi/f117を介して接続される。

【0018】

また、このファクシミリ装置は操作部112からの指示に基づくファクシミリデータの送信の他に、PCi/f117を介してPC118からの送信指示コマンドを受け取ることによりファクシミリデータを送信する。

【0019】

図2は図1のファクシミリ装置の操作部112からの操作により画像データを送信する際の処理の流れを示すフローチャートである。このフローチャートはROM102に格納されたプログラムデータに基づきCPU101が行う制御の流れを示すものである。

【0020】

操作部112上の宛先指示キー、例えばワンタッチダイヤルキーや短縮ダイヤルキーなどがオペレータにより押下されたことを検出すると（ステップS1）、

押下された宛先キーに対応するRAM103内の宛先情報をチェックし（ステップS2）、内容が無効または該当データがない場合はエラー終了する。

【0021】

内容が有効なデータであれば該当する宛先情報を外部表示部113に表示する（ステップS3）。その後、宛先を確定するキー操作または所定の時間経過を待って（ステップS4）、確定条件成立後、宛先情報を確定する（ステップS5）。

【0022】

送信受付番号と送信受付時刻を設定した後（ステップS6）、スキャナ111の原稿台上の原稿の画像を読み取り、通信回線119を介してITU-TのT.30に従い、確定した宛先にファクシミリデータの送信を行う（ステップS7）。送信終了後、送信情報をPCインターフェース117を経由してPC118に通知する（ステップS8）。

【0023】

送信情報通知は、送信後に一括して通知しても良いし、送信状態が変化する毎に、例えばダイヤル開始、前手順開始、各ページの画像データ送信開始、通信終了などのタイミングで逐時、必要な情報を通知する方法でも良い。

【0024】

図3は図2のステップS8における送信情報通知処理の流れを示すフローチャートである。

【0025】

通知のタイミングは予め設定しておくものとし、送信終了後に一括して通知するよう設定されている場合は全ての送信情報を一度にPC118に通知し、送信状態が変化する毎に逐時通知するよう設定されている場合は通知すべき送信情報が一つ確定する毎に一つずつPC118に通知する。

【0026】

まず、送信宛先に関する情報、送信開始時刻および終了時刻、通信時間、通信結果（OKまたはNG）、送信ページ数などの通知すべき送信情報のうち確定しているものをRAM103内の通知データバッファにセットする（ステップS1

1)。送信情報に送信画像データを含めるか否かの設定をチェックする（ステップS12）。送信画像データも通知する設定である時は通知データバッファに送信画像データの識別情報をセットする（ステップS13）。

【0027】

次にPC118がデータ授受可能な状態であるかどうかをチェックし（ステップS14）、可能な状態であれば、通知データバッファにセットされた情報をもとにデータを転送する（ステップS15）。PC118が可能な状態にない場合、または転送終了後、転送が正常に終了しなかった場合（ステップS16）、未通知情報として通知データバッファ内のデータをもとに保存処理を行う（ステップS19）。データをファイルとしてRAM103内に蓄積する方法でも、RAM103内の保存データ領域に書き出す方法でも良い。その時、未通知情報カウンタを1増やす（ステップS20）。

【0028】

送信情報通知が正常終了した場合は、未通知情報カウンタの値をチェックし（ステップS17）、もし0でなければ未通知情報カウンタの値を1減らしてステップS11に戻り、送信情報通知を繰り返す。もし0ならば終了する。

【0029】

図2、図3ではファクシミリ装置側からPC118に情報を通知するようにしたが、PC118側からファクシミリ装置に問い合わせる情報を取得するようにしてもよい。

【0030】

図4はPC118による処理の流れを示すフローチャートである。このフローチャートはPC118のハードディスクにインストールされたプログラムに基づきPC118のCPUにより実行される処理の流れを示すものである。

【0031】

まず、PCi/fを介してファクシミリ装置にコマンドを送出する（ステップS21）。このコマンドが送信要求コマンドであれば送信画像データ、宛先情報等をファクシミリ装置に転送し送信させる（ステップS22）。

【0032】

一方、コマンドがポーリングコマンドであった場合はファクシミリ装置のRAM103の所定エリアの情報を確認する。ここではRAM103内で種々の情報や装置の状態に変化があったか否かを示す情報を確認し、あれば該当する情報を引き出すものである。

【0033】

ステップS23ではローカル送信情報、つまりファクシミリ装置の操作部112からの指示に基づく送信に関する情報であるか否かを判断し、あればこの情報を取得し(ステップS24)、PC118のハードディスクにローカル送信かリモート送信かの情報とともに前述のような送信情報を記憶する(ステップS25)。

【0034】

ステップS26ではリモート送信情報、つまりPC118からの送信要求コマンドに基づく送信に関する情報であるか否かを判断し、前述の如く送信情報の取得(ステップS27)、及び記憶(ステップS28)を行う。

【0035】

ステップS25、28で記憶した情報は必要に応じて表示させたりプリントアウトさせたりすることが可能である。

【0036】

(第2の実施形態)

図5は第2の実施形態に係るファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【0037】

図1と同一の符号を付したものは同様なものであるがここでの説明は省略する。

【0038】

LAN制御部120は、有線LAN124あるいは無線LAN125上のサーバまたは端末とデータの授受を行うために、データの処理を行うものである。有線LAN122は有線LAN125に、無線LAN123は無線LAN125に接続されている。

AN125にファクシミリ装置を接続するためのインターフェースであり、有線LANi/f122及び無線LANi/f123は有線/無線LAN制御部121によって制御される。図5におけるNCU109は、選択信号（ダイヤルパルスまたはトーンダイヤラ）を有線回線i/f127を介して有線通信回線11Pに送出する他、無線回線i/f128を介して無線通信回線129に選択信号を送出する機能を有する。有線/無線回線制御部126は、有線回線i/f127及び無線回線i/f128の制御を行う。また、LANユーザ情報記憶メモリ130はネットワーク上のユーザまたはクライアント関係の情報を記憶するためのメモリである。この情報は操作部112の操作によって外部表示部113に表示され、操作者によって選択される。図5における操作部112にはこのLANユーザ宛先選択手段が含まれる。

【0039】

図6は図5に示したファクシミリ装置を接続したネットワークの構成を示す図である。

【0040】

201は、図5に示したファクシミリ装置であり、直接有線LAN124および無線LAN125に接続可能なファクシミリ装置である。

【0041】

202は、ファクシミリ装置201の接続されているLANのサーバマシンであり、大容量の記憶装置内でLANおよびLAN上のファイルの管理を行う。またLAN上のクライアントまたはユーザの管理プロセスとデータもこのサーバマシン上におかれる。

【0042】

203および204は、有線LAN124に接続されたパーソナルコンピュータ等のクライアントマシン（情報処理端末）である。

【0043】

205は、クライアントマシンからのプリント要求を受け付け、プリンタにプリントすべきデータを出力する制御を行うプリンタサーバであり、206は画像データを可視画像として出力するプリンタである。

【0044】

207は、無線LAN125に接続されたクライアントマシンである。

【0045】

208はPSTN119を通してファクシミリ装置201と通信を行うファクシミリ装置である。

【0046】

209は、無線基地局であり、ファクシミリ装置201と無線回線128を通してファクシミリの通信を行う。また、無線基地局209はPSTN119経由で有線通信回線網と接続される。

【0047】

図7はサーバマシン202で管理されるLAN上のユーザおよびクライアントの管理情報の内容を示す図である。この管理情報はサーバマシン202の記憶装置内に記憶される。

【0048】

ユーザ情報にはLAN上で使用が許可されたユーザに関する情報が管理される。各ユーザ毎にユーザ名称とユーザがloginしているホストマシンのホスト名が管理される。ユーザ名称もloginホスト名もサーバマシン202のCPUで読み取り可能なテキスト列のデータである。

【0049】

クライアント情報はLANに接続されたクライアントマシンに関する情報が管理される。各クライアント毎にクライアントマシンのネットワーク上のホストアドレスとクライアントマシンの状態が管理される。ホストアドレスはTCP/IPプロトコルでは123.456.789.001等のデータであり、クライアントマシンの状態としては接続、非接続がある。

【0050】

図8は図5のファクシミリ装置201の操作部112からの操作により画像データを送信する際の処理の流れを示すフローチャートである。このフローチャートはROM102に格納されたプログラムデータに基づきCPU101が行う制御の流れを示すものである。

【0051】

操作部112上の宛先指示キー、例えばワンタッチダイヤルキーや短縮ダイヤルキーなどがオペレータにより押下されたことを検出すると（ステップS31）、押下された宛先キーに対応するRAM103内の宛先情報をチェックし（ステップS32）、内容が無効または該当データがない場合はエラー終了する。

【0052】

内容が有効なデータであれば該当する宛先情報を外部表示部113に表示する（ステップS33）。その後、操作者を指定するキー入力（ステップS34）と宛先を確定するキー操作または所定の時間経過を持つ（ステップS35）。操作者を指定するキーが押下された場合は、該当する操作者情報がRAM103内にあるかをチェックし（ステップS41）、情報があれば表示する（ステップS42）。確定条件成立後、宛先情報と操作者情報を確定する（ステップS36）。

【0053】

送信受付番号と送信受付時刻を設定した後（ステップS37）、スキャナ111の原稿台上の原稿の画像を読み取り、通信回線119または129を介してITU-TのT.30に従い、確定した宛先にファクシミリデータの送信を行う（ステップS38）。送信終了後、操作者情報が指定されていたかどうかをチェックし（ステップS39）、指定されている場合は、送信情報を操作者情報とともに有線LANインターフェース122を経由してサーバマシン202に通知する（ステップS40）。

【0054】

送信情報通知は、前述のように送信後に一括して通知しても良いし、送信状態が変化する毎に、例えばダイヤル開始、前手順開始、各ページの画像データ送信開始、通信終了などのタイミングで逐次、必要な情報を通知する方法でも良い。また、操作者情報が指定されていない場合に、操作者不明を示すデータとともに送信情報を通知しても良い。

【0055】

図9はステップS40における送信情報通知処理の流れを示すフローチャートである。処理の流れは図3に示したフローチャートとほぼ同様でありステップS

51において図3のステップS11でセットした情報にステップS36で確定した操作者情報を加えてセットし、ステップS54では図3のステップS14のPCをサーバマシン202と読み替え、操作者情報を含む送信情報を転送する点異なる。

【0056】

次にサーバマシン202による処理について説明する。

【0057】

図10はサーバマシン202のCPUが該サーバマシン202が備えた記憶装置にインストールされたプログラムデータに基づき実行する制御の流れを示すフローチャートである。

【0058】

ステップS61では有線LANi/f122または無線LANi/f123を介してLAN上のクライアントマシンからのコマンドを受信したか判断する。コマンドを受信すると、そのコマンドが送信要求か判断し（ステップS62）、送信要求であれば送信すべきデータとともに送信要求データをファクシミリ装置201に転送する（ステップS69）。

【0059】

ステップS63でコマンドが情報取得要求と判断した場合はステップS64に進み、要求のあった（要求した操作者（ユーザ）に対応した）送信情報が該サーバマシン202の記憶装置に記憶されているか判断する。記憶されていればステップS65で操作者（ユーザ）に対応したLAN上のクライアントマシンに操作者情報及びローカル送信リモート送信かを示す情報を含む送信情報を転送する。

【0060】

一方、ステップS64で記憶装置に転送すべき情報が記憶されていなかった場合はファクシミリ装置201のRAM103に該当する送信情報が記憶されているか問い合わせ（ステップS67）、あればその送信情報を取得し、記憶装置にセットする（ステップS68）。そして、ステップS65でその送信情報を転送する。

【0061】

以上述べたような実施形態によればPC等からのリモート操作による送信に関する情報ばかりでなくファクシミリ装置の操作部からのローカル操作による送信に関する情報もPC側で一括して管理することができ、通常PCの側で作業を行うユーザにとって有用である。また、PC側ではリモート送信とローカル送信とを区別して管理しているので状況の把握が容易となる。

【0062】

また、特に第2の実施形態によれば、ローカル送信の場合、操作者情報を入力したか否かにより送信情報を通知するか否かを制御するので、ユーザの意志に従って、PC側で管理させるか否かを決定できる。

【0063】

また、必要に応じ、サーバマシン202でLAN上の全てのユーザの送信情報を管理でき、またユーザ個々の送信情報は該ユーザのクライアントマシンに転送するので、各ユーザがリモート送信、ローカル送信を区別して管理することができる。

【0064】

本発明は複数の機器（たとえばホストコンピュータ、インターフェース機器、リーダ、プリンタ等）から構成されるシステムに適用しても一つの機器（たとえば複写機、ファクシミリ装置）からなる装置に適用してもよい。

【0065】

また前述した実施形態の機能を実現すべく各種のデバイスを動作させる様に該各種デバイスと接続された装置あるいはシステム内のコンピュータに、前記実施形態機能を実現するためのソフトウェアのプログラムコードを供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（CPUあるいはMPU）を格納されたプログラムに従って前記各種デバイスを動作させることによって実施したものも本発明の範疇に含まれる。

【0066】

またこの場合、前記ソフトウェアのプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコード自体、及びそのプログラム

コードをコンピュータに供給するための手段、例えばかかるプログラムコードを格納した記憶媒体は本発明を構成する。

【0067】

かかるプログラムコードを格納する記憶媒体としてはフロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROM等を用いることが出来る。

【0068】

またコンピュータが供給されたプログラムコードを実行することにより、前述の実施形態の機能が実現されるだけではなく、そのプログラムコードがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）、あるいは他のアプリケーションソフト等と共同して前述の実施形態の機能が実現される場合にもかかるプログラムコードは本発明の実施形態に含まれることは言うまでもない。

【0069】

更に供給されたプログラムコードが、コンピュータの機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリの格納された後そのプログラムコードの指示に基づいてその機能拡張ボードや機能格納ユニットに備わるCPU等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も本発明に含まれることは言うまでもない。

【0070】

【発明の効果】

以上説明した様に本発明によれば、データ通信装置のローカルオペレーションによるデータの送信処理に関する情報を容易にデータ処理装置側で一括して管理させることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1の実施形態に係るファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【図2】

図1のファクシミリ装置による処理の流れを示すフローチャートである。

【図3】

図1のファクシミリ装置による処理の流れを示すフローチャートである。

【図4】

PC118による処理の流れを示すフローチャートである。

【図5】

本発明の第2の実施形態に係るファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【図6】

図5のファクシミリ装置をネットワークに接続した形態例を示す図である。

【図7】

サーバマシン202の記憶装置で管理されている情報を示す図である。

【図8】

ファクシミリ装置201による処理の流れを示すフローチャートである。

【図9】

ファクシミリ装置201による処理の流れを示すフローチャートである。

【図10】

サーバマシン202による処理の流れを示すフローチャートである。

【符号の説明】

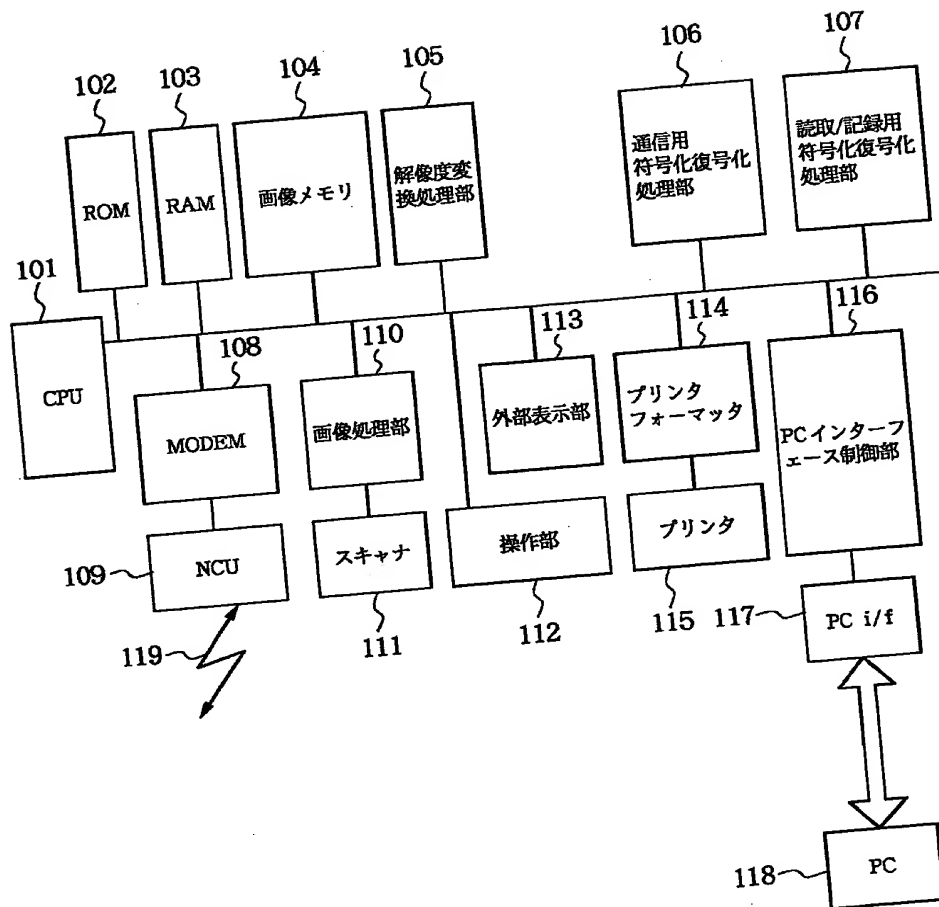
- 101 CPU
- 102 ROM
- 103 RAM
- 104 画像メモリ
- 105 解像度変換処理部
- 106 通信用符号化復号化処理部
- 107 読取／記録用符号化復号化処理部
- 108 MODEM
- 109 NCU
- 110 画像処理部
- 111 スキャナ

特平 8-348049

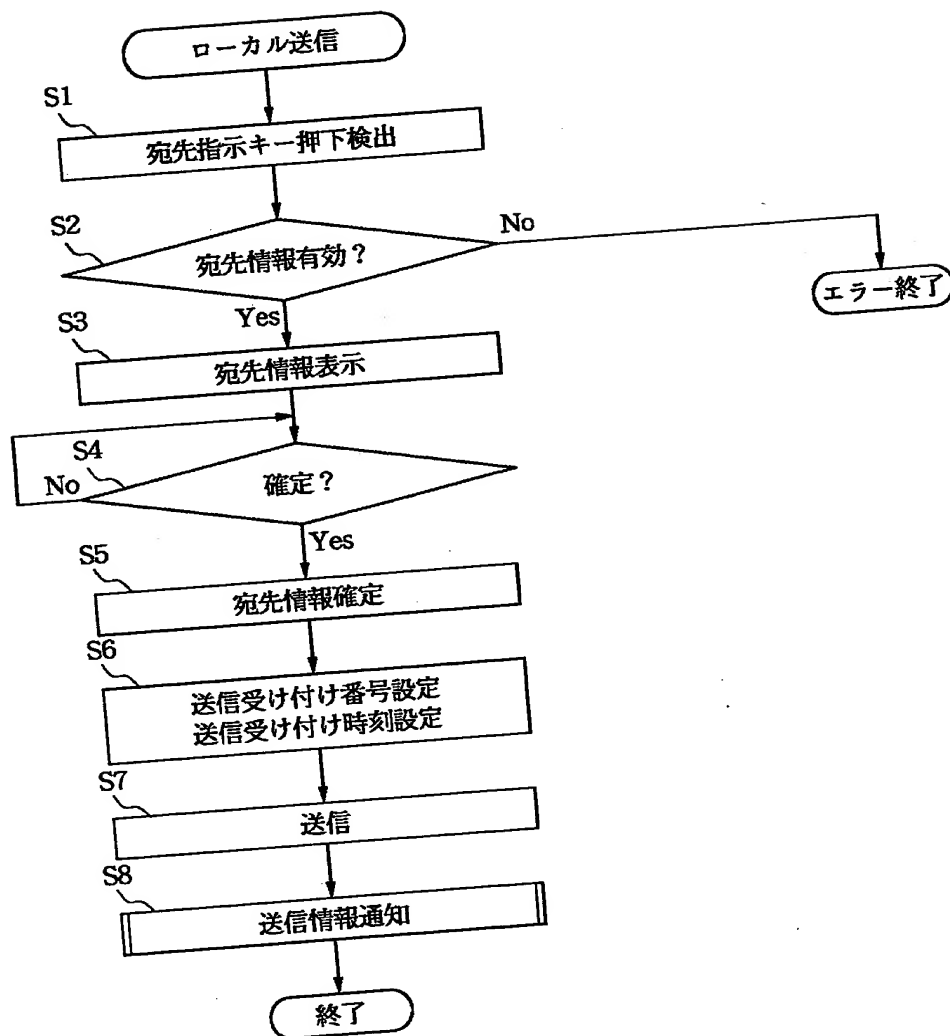
- 112 操作部
- 113 外部表示部
- 114 プリンタフォーマッタ
- 115 プリンタ
- 116 PCインターフェース制御部
- 117 PCインターフェース

【書類名】 図面

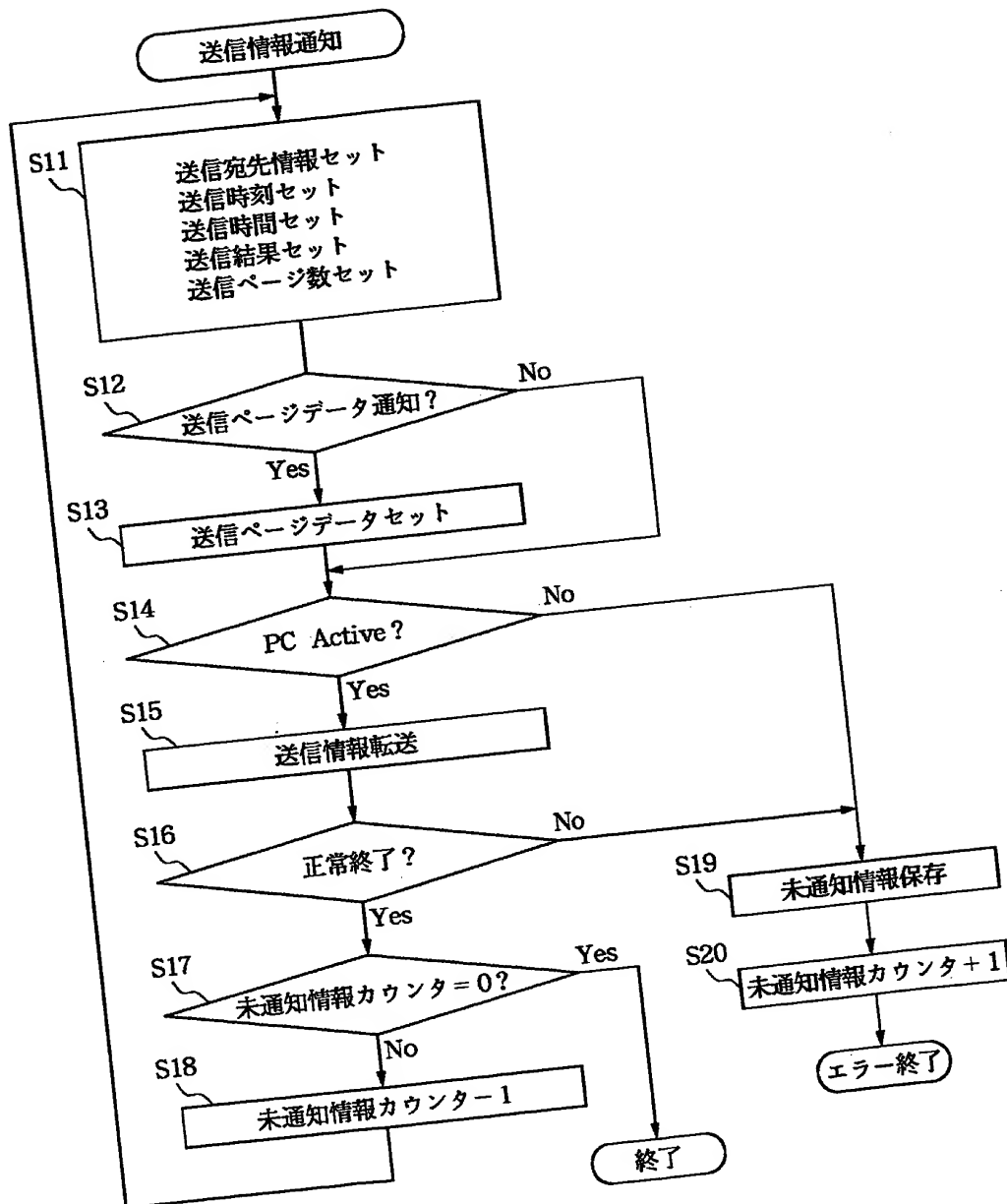
【図1】



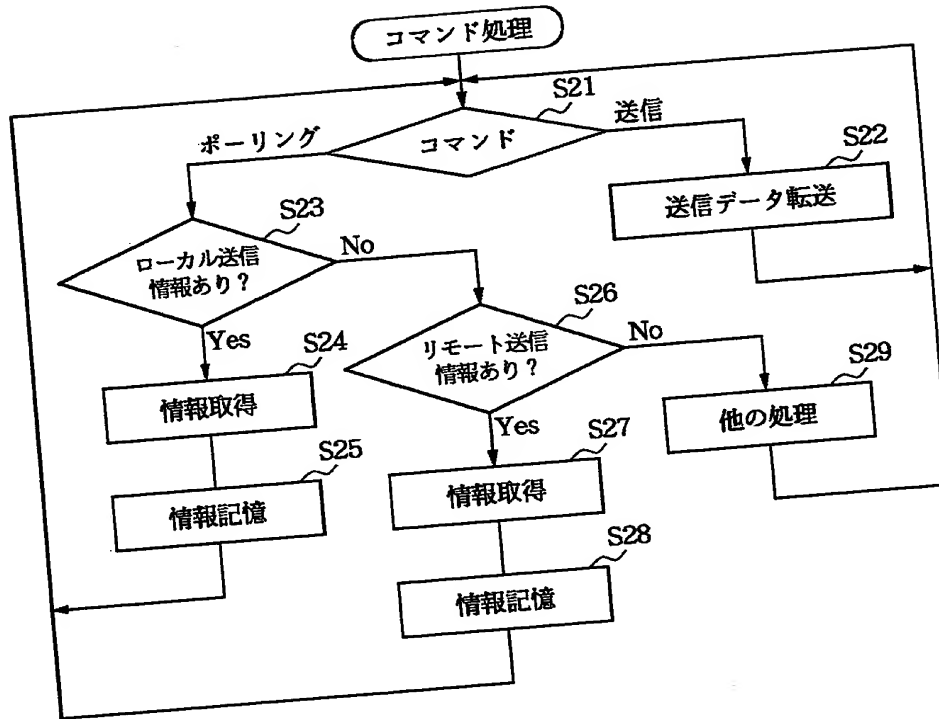
【図2】



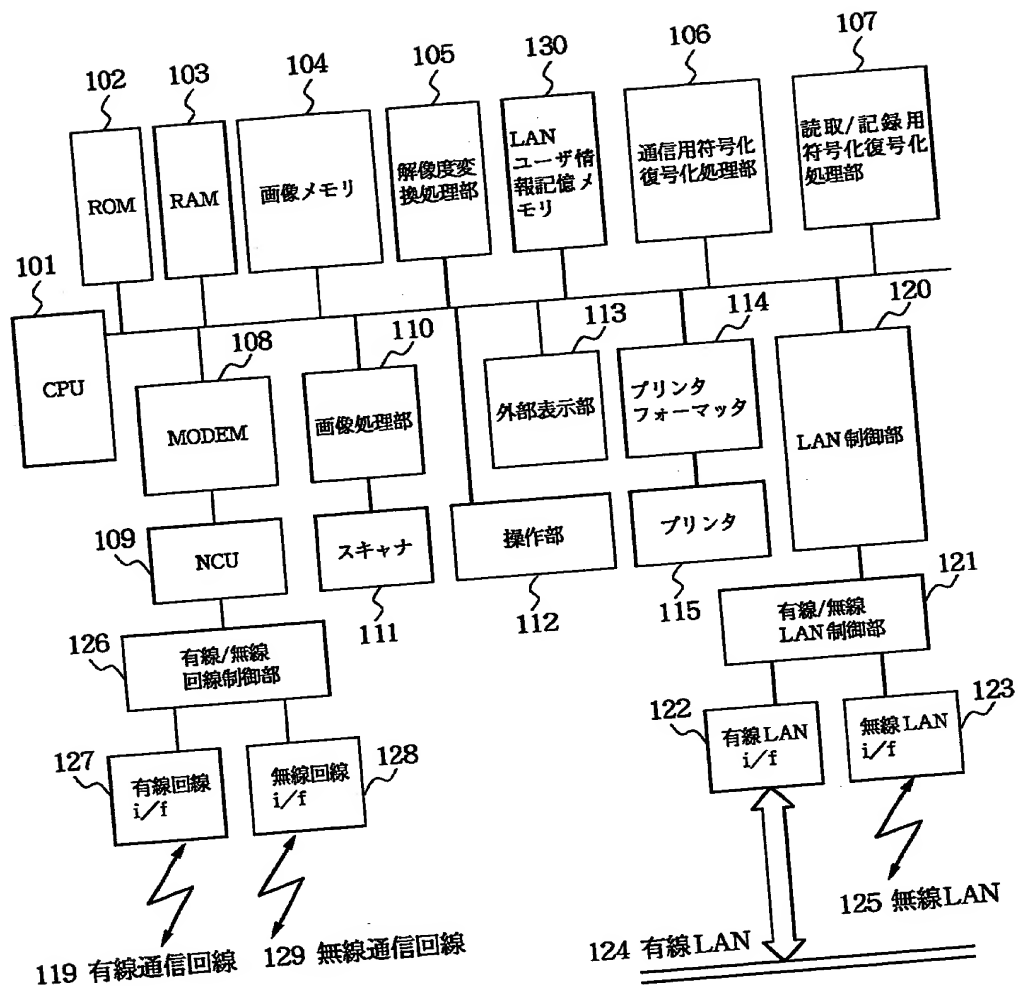
【図3】



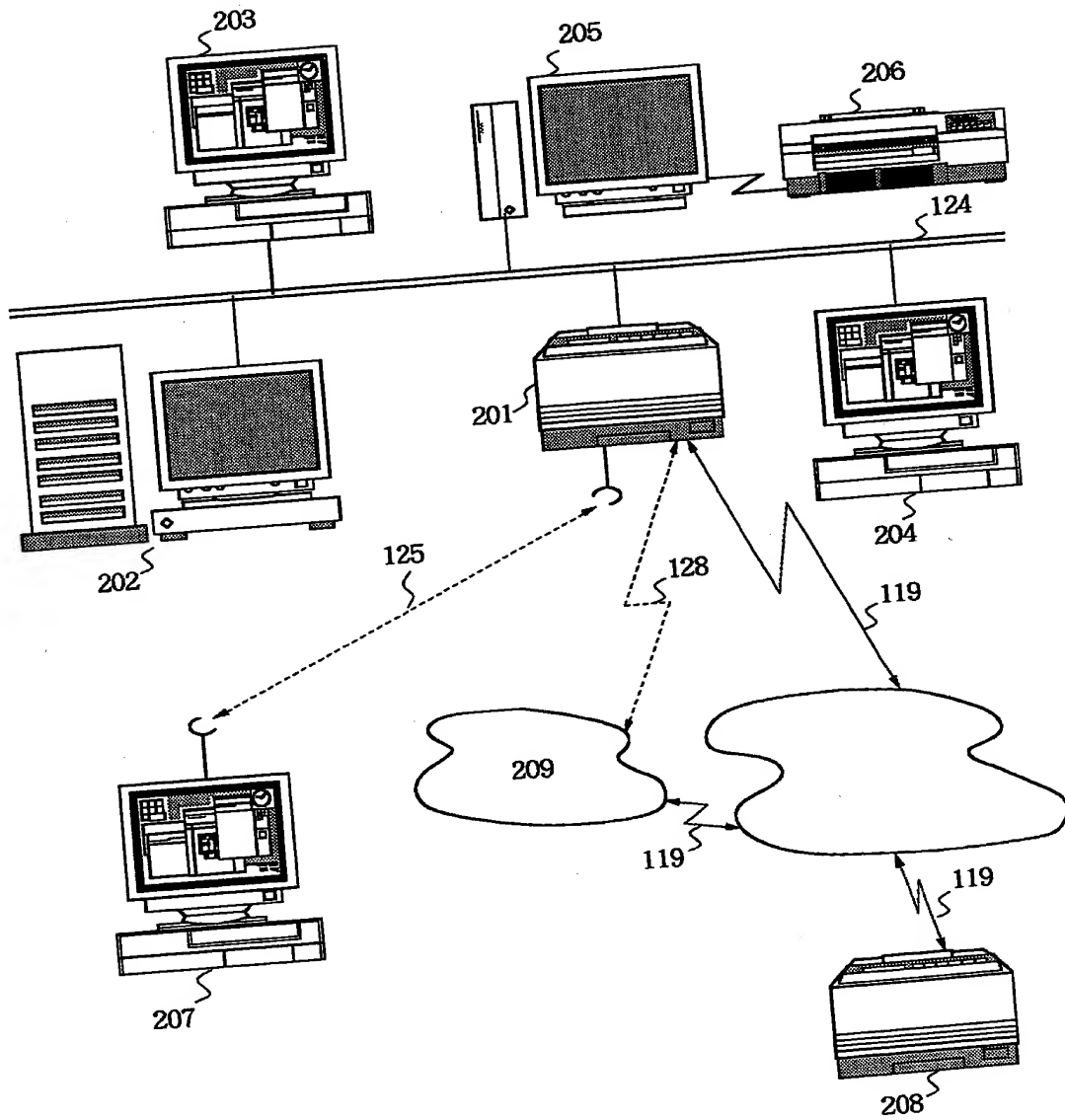
【図4】



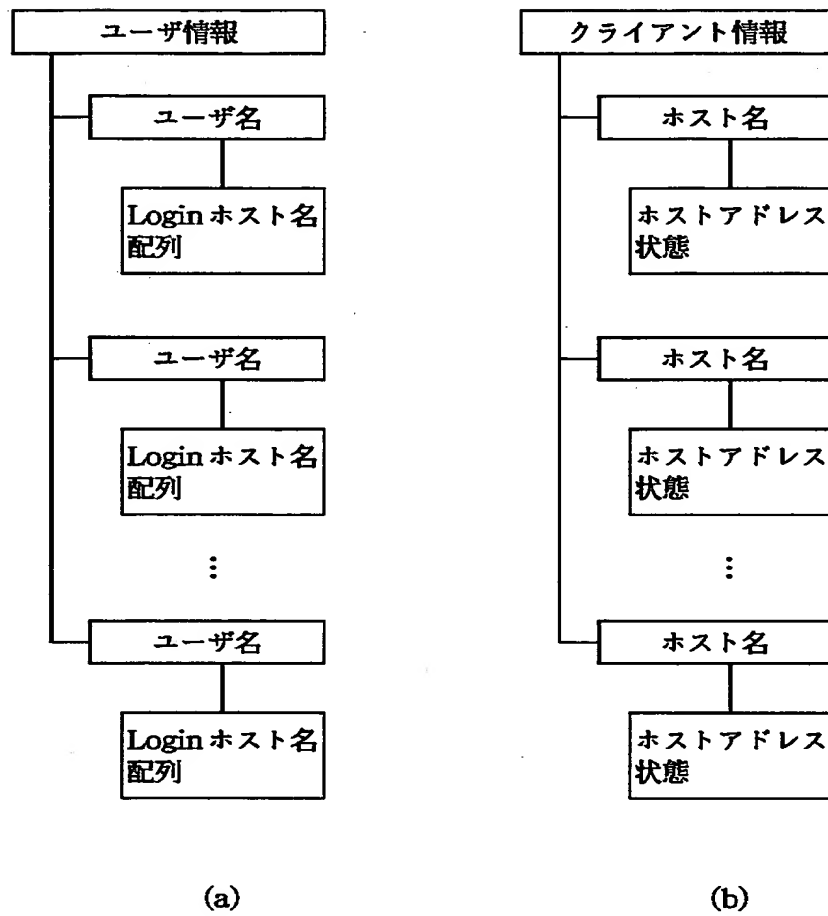
【図5】



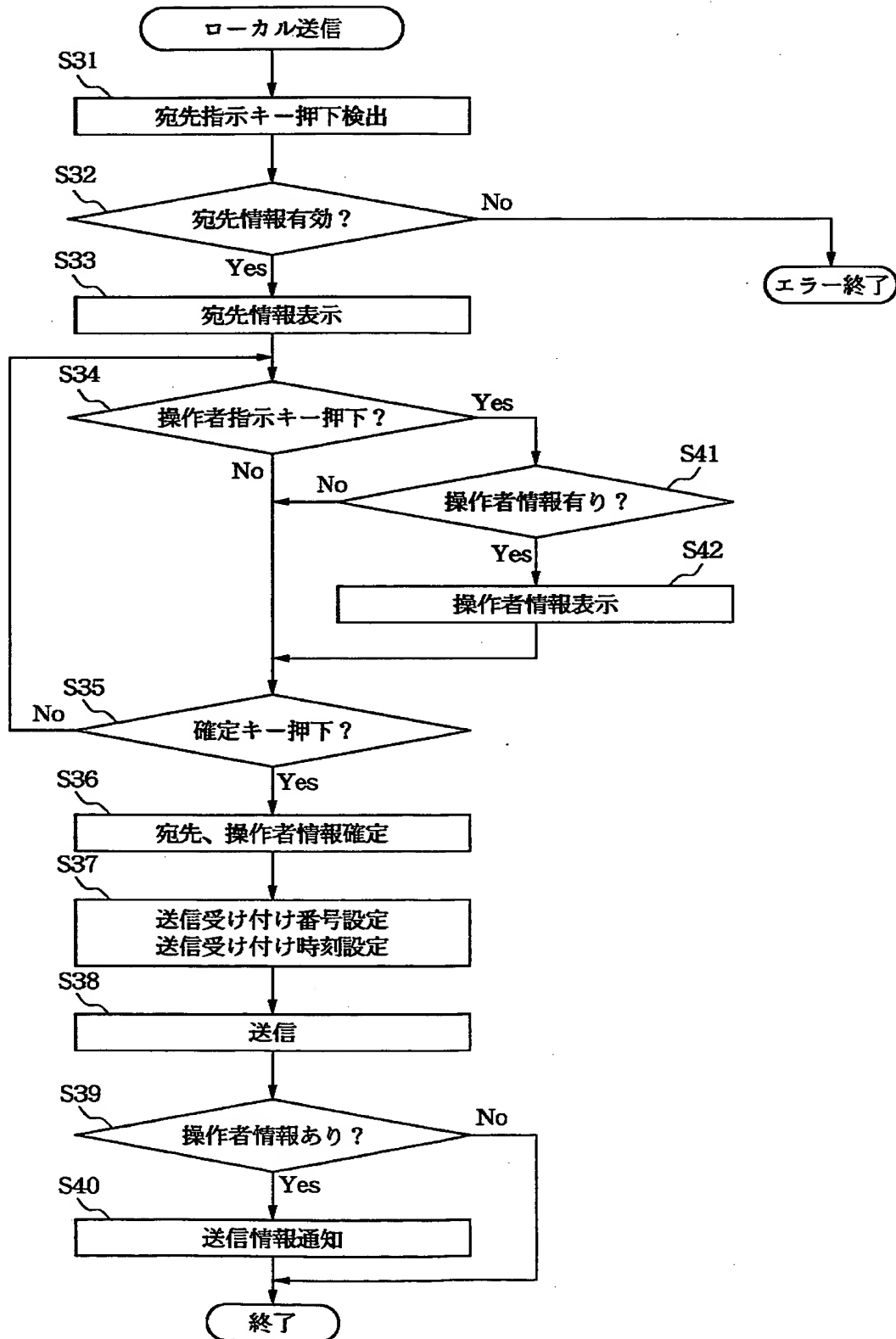
【図6】



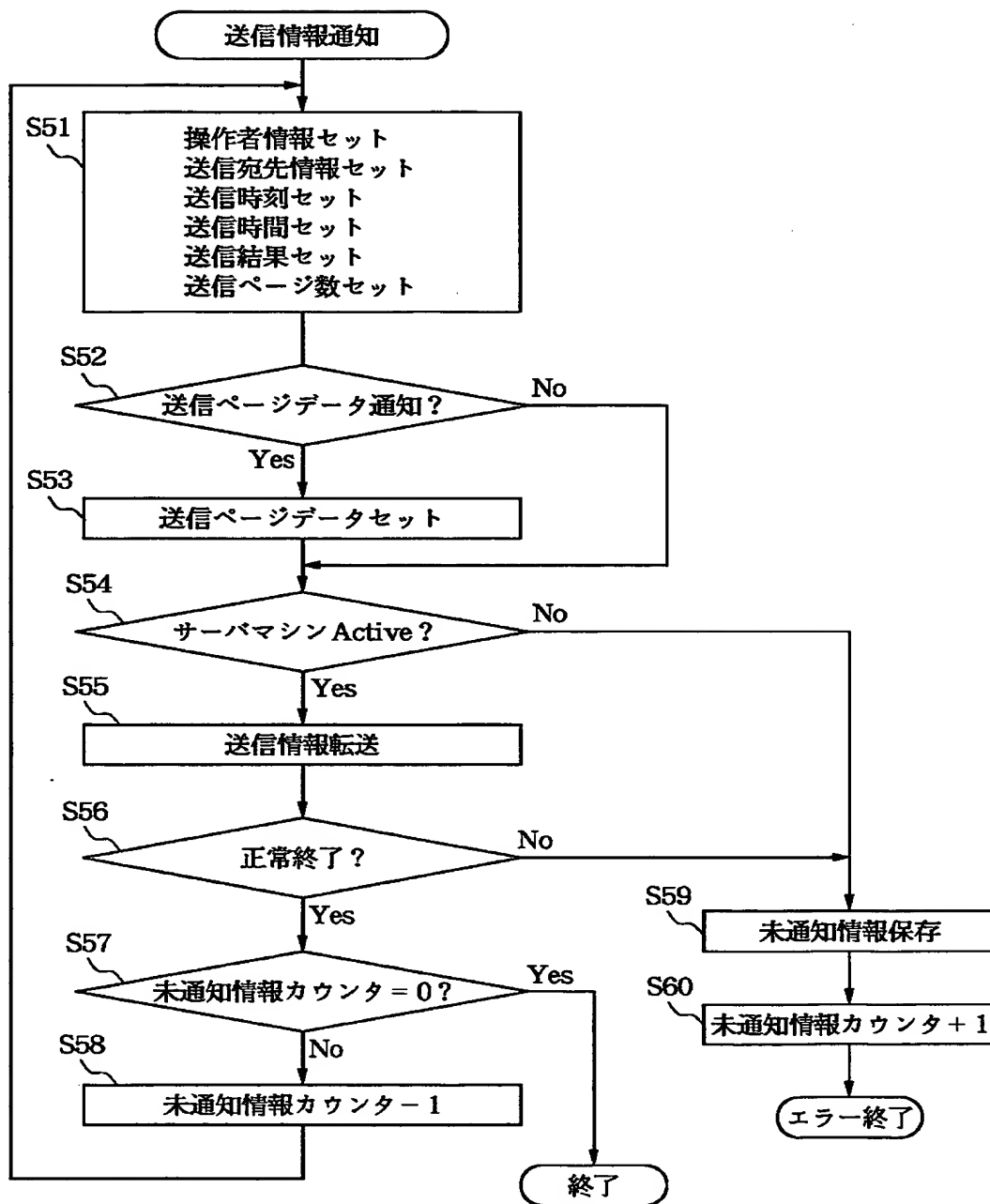
【図7】



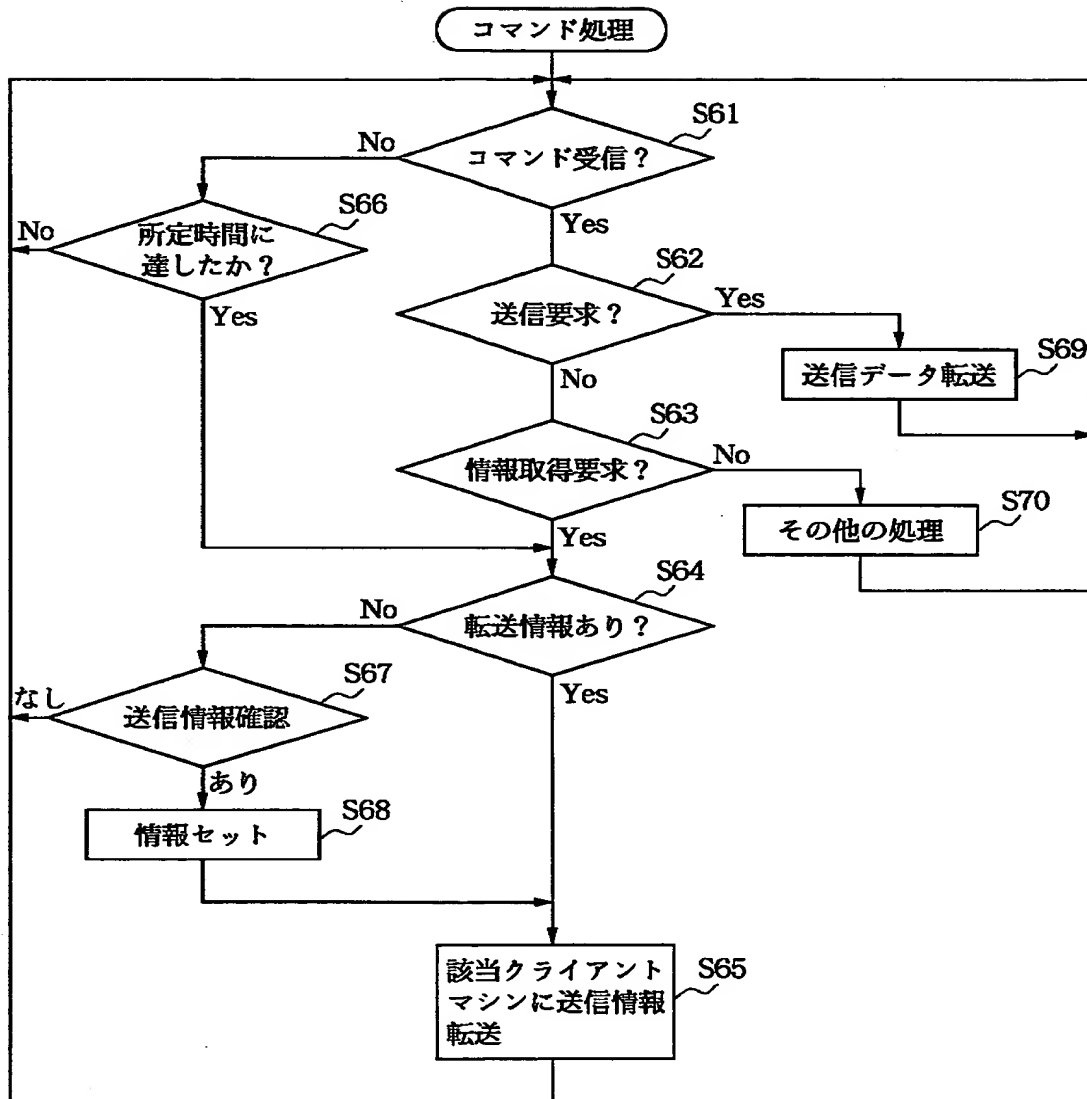
【図 8】



【図 9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 データ通信装置の操作手段からのローカルオペレーションによるデータの送信に関する情報を容易にデータ処理装置側で一括して管理させる。

【解決手段】 操作部112のオペレータによる操作によりスキャナ111で読み取ったデータをMODEM108を介して通信回線119で送信した際に、この送信に関する情報をPCi/f117を介してPC118に転送する。

PC118側ではこのローカル操作による送信とリモート操作による送信とを区別して記憶装置に記憶し、必要に応じて出力する。

【選択図】 図1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】
【識別番号】 000001007
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
【代理人】 申請人
【識別番号】 100069877
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3-30-2 キヤノン株式会
社内
【氏名又は名称】 丸島 儀一

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名	キヤノン株式会社